



能登教区通信

このたび、標記通信2020年6月号を発行いたしましたので、ご一読のほどお願い申し上げます。

発行責任者 真宗大谷派 能登教務所長 篠原 亨栄

教務所からのお願い

来所の際は、マスク着用、咳エチケットや手洗い・うがいの励行など、十分な予防対策を施してお越しくさせていただきますようご協力をお願いいたします。

本山・教区事務についてのご連絡

◇能登教務所教区雇員(非常勤・アルバイト)の募集について◇

このたび、能登教務所に勤務していただく教区雇員(非常勤・アルバイト)の方1名を募集します。詳細は別紙募集要項をご参照ください。

◇本山経常費完納寺院◇(2020.4.1~4.30迄)

2019年度本山経常費をご完納いただき、有難うございました。ここにご披露申し上げ、御礼に代えさせていただきます。

鶺鴒組	光樂寺	第10組	永誓寺
穴水組	清琳寺	第12組	三忍寺

◇宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃懇志金完納寺院◇

(2020.4.1~4.30迄)

今年度より募財をお願いしております慶讃懇志金につきまして、ご完納いただき有難うございました。ここにご披露申し上げ、御礼に代えさせていただきます。

第12組 三忍寺

◇済美精舎参拝者用椅子ご寄付の御礼◇

寄付総額 1,590,000円

済美精舎参拝者用椅子について、皆様から多大なるご寄付を賜っておりますことに厚く御礼申し上げます。下記の御寺院より寄付のご協力をいただきましたので、ここにご披露申し上げ、御礼に代えさせていただきます。

寄付にご協力いただいた方(2020年5月18日付)

第8組 聞信寺

※合計167カ寺、1団体、個人7名の方々よりご協力いただきました。皆様からのご協力に対し、重ねて御礼申し上げます。

◇敬弔◇(教区通信5月号 掲載以降)

御生前の御苦勞を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

第1組 泉福寺 前住職 福谷 祐恵 2020年5月1日

第2組 柳瀬専勝寺 前坊守 大窪 照子 2020年5月5日

◇教区会臨時会報告◇

5月15日に教区会(臨時会)が招集され、下記のとおり、新教区役職者が選出されました。

1 教区会議長及び副議長

教区会議長 完 恵(第10組 永誓寺)

教区会副議長 元藤 了賢(第3山方組 極應寺)

2 教区会参事会員及び補充員

選出参事会員 竹津 篤義(第2組 西教寺)、靈崎 秀史(第4組 長光寺)

梯 浄円(第6組 願行寺)、松原 洋(第8組 正願寺)

倉見 理(第10組 光樂寺)、成田 賢論(第12組 成宗寺)

大久保 昇(第14組 正永寺)

同第1補充員 寺田 彰(第11組 長正寺)

同第2補充員 不二井悟史(穴水組 西蓮寺)

◇おすすめ出版物の紹介◇

はじめての仏教学 —ゴータマが仏陀になった

老病死に苦悩した青年ゴータマは“仏陀”になった。仏教の基本的な思想をやさしく解説した入門書。(宮下晴輝著/東本願寺出版/

224頁/新書判/858円)



釈尊の呼びかけを聞く 阿弥陀経入門



お釈迦さまが阿弥陀仏と極楽(浄土)について説いたお経『阿弥陀経』の入門書。(一楽真著/東本願寺出版/152頁/B6判

/1,100円)

※この教区通信は能登教区ホームページよりPDFファイルでダウンロードすることができます。適宜ご活用ください。

能登教区教化テーマ ほとけさまに会いにきたいのち、今ともに生きよう

能登教区教化スローガン 一人一人が親鸞聖人に向き合う生活を

慶讃テーマ 南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう

能登教区ホームページアドレス URL <http://ohigashi-noto.jp/>

第49回 教区同朋大会中止について(総合教化本部)

皆様にはすでにお知らせいたしましたように、昨今の新型コロナウイルス感染症の流行に対応し、さらなる感染拡大の防止に努めるために、第49回能登教区同朋大会を中止いたしました。

これまで、同朋大会実行委員の皆様には度々会議を重ねていただき、大会テーマ・趣旨文の作成、講師の選定、日程内容の企画などに精力的に取り組んでいただきました。また、ポスター・チラシにつきましても教区人の方にデザインを作成していただき、印刷をして各寺院などへの発送もすませ、あとは参加者を募り、当日の開催を待つまでとなっております。

しかし、上記のような状況によりまして中止せざるを得ないこととなりました。今回の大会に向けて企画・準備にご尽力をくださいました方々、また、大会に参加を予定されておられました方々には、誠に申し訳なく思います。

つきましてはここに、実行委員の皆様が思惟を重ねて作成していただきました「趣旨文」をお送りいたします。皆様にも是非ご一読いただきたいと思いますし、また何かの機会に有縁の方々と、この趣旨文に提起されている課題や願いについて語り合い、共有していただければ、同朋大会の意義にも相応するのではないかと思います。

なお、「教区通信」(2020年5月号)に、当日の参加記念品として予定しておりました『能登教壇』(第3号)を各寺院へ2冊ずつ贈呈させていただきました。今後の教化伝道に是非ご活用くださいますようお願い申し上げます。

「帰敬式実践運動の推進」について

また、大会当日、総合教化本部から提言させていただこうと予定しておりました「帰敬式実践運動の推進」について、一言申し添えます。

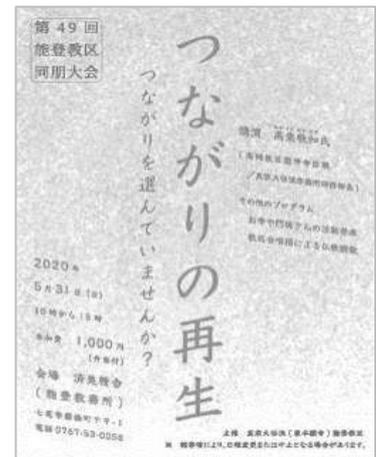
教区同朋大会は、この数年間、「つながりの再生」をテーマに掲げて開催されてきました。そこには、能登教区が直面している過疎問題にかかわって、「人口的な過疎」が「法縁の過疎」とはならないように、目の前の一人を見失うことなくつながりの再生を図っていかうという願いが込められています。

この「つながりの再生」を願う具体的な施策のひとつとして「帰敬式実践運動の推進」を位置づけ、今後の教区教化活動の重点目標として実行していきたいと考えております。

帰敬式は、法名を名告って歩み出す真宗門徒の出発式と言えます。それは、お念仏によって生きる人としての誕生でもあり、また、日々の生活の中でご本願の教えを聞信していく歩みの始まりでもあります。有縁の方々お一人おひとりに、このような自覚と名告りを持って歩み出していただきたいということがその願いとするところです。

この帰敬式実践運動を推進することは、単にご門徒の帰属意識を高め、更に組織化を図るためのものということではありません。この運動を展開する中で、僧俗共に、邪見に惑う自分たちの姿を問い返し、真の本尊(本当に尊いこと)とは何かを確かめ合っていく。そのことを通して、私たち自身がご門徒を「御同朋御同行」として見出し、出遇い直していくことではないでしょうか。そこにこそ「つながりの再生」としての帰敬式受式の意義があるように思います。

今後、「能登教区(組)帰敬式実践運動推進計画」として行動計画を策定し、教区会等の承認を得て具体的に展開してまいりますので、同封の「帰敬式Q&A」や宗派ホームページ等をご参照いただき、ぜひご理解と積極的な参画をお願い申し上げます。



デザイン：飯貝孝介氏
(第2組本念寺住職)

テーマ、趣旨文について

教区同朋大会では、毎年、実行委員会を設け、テーマや趣旨文、日程等の検討・企画をしています。第46回からはテーマを「つながりの再生」とし、これをもとに実行委員でサブテーマと趣旨文を作成してきました。

今回も引き続き同じテーマとすることとし、昨今の社会状況や教区の抱える課題等を鑑みながらサブテーマと趣旨文を検討しました。その中で、まずテーマにある「再生」とは、どのような状態を目指しているのか？という問いが生まれました。そして話し合いの末、「再生とは自覚すること」であり、人とのつながりを選び取っている(排除している)私自身を自覚することが大事なのではないか、という結論に至り、サブテーマを「～つながりを選んでいませんか？～」としました。そして、この話し合いからでてきた内容を踏まえ以下のとおり趣旨文を作成いたしました。

ぜひご一読いただき、みなさまの聞法生活の一助として頂ければ幸いです。

(同朋大会実行委員 福田 正充 記)

第49回能登教区同朋大会 趣旨文

つながりの再生 － つながりを選んでいませんか？ －

あなたは「おかげさま」という言葉を思い出すとき、どなたの顔が浮かんでできますか？家族、恋人、友人、かつてお世話になった恩師の顔などが浮かんでくる方が多いのではないのでしょうか。これらの人たちはあなたにとって好ましい人であり快適な人ですね。こういう人とは出来るだけ近い間柄でいたいと思っていることでしょう。

では反対に、あなたの苦手な、もっと言うと嫌いな人の顔は浮かんでできますか？顔を思い出すだけで腹が立ち、できれば遠ざけたい、関わり合いたくないと思うのではないですか。このように自分の都合の良いつながりを選び取って生きているのが私たちです。

しかし実際には私たちのいのちは、自分に都合の良いつながりだけによってあるのではありません。いのちのつながりとは、人間の都合のものさしを超えた、私たちがはかることができないようなもっと豊かなものといえるでしょう。

私たちはほとけさまによってつなげていただいている仲間です。そこには自分の好きな人も嫌いな人もいます。でも一緒になって念仏しています。この不思議を共に味わいながら、豊かなつながりとは何か一緒に考えてみましょう。